

2024.1月9日(火)19:00開演 (会場:浜離宮朝日ホール)

脇園彩&小堀勇介 ニューイヤー・デュオリサイタル with 園田隆一郎 スペシャルインタビュー

奇跡の一夜が近づいている！今、ヨーロッパのオペラ界を席卷している脇園彩と、ロッシーニを中心とするベルカント・オペラを歌わせたら右に出るものはいない小堀勇介のデュオ・リサイタルを、イタリア・オペラのトップ指揮者、園田隆一郎のピアノで聴くことができる千載一遇のチャンスだ。(取材・文/井内美香)

● 脇園、小堀、園田の共通項はイタリア、ペーザロのロッシーニ・オペラ・フェスティバル(ROF)にある。ロッシーニ演奏の世界的な指針であるROFのアカデミーで学び、音楽祭で歌い、そこで指揮をしたことが三人の基礎を作っているのだ。先頃、ROF2024年夏の演目《ピアンカとファッリエーロ》ファッリエーロ役に脇園彩の出演が発表された。もはや彼女が名実ともにロッシーニ歌唱の世界最高峰であることは間違いない。

脇園:最近ベルギー、リエージュの歌劇場で《セビアの理髪師》ロジーナ役を歌いました。そこで歌っていたキャストは私を含め、ROFアカデミー出身者が過半数。今や世界の一流歌劇場でロッシーニを上演する時には、ROFアカデミー出身の歌手をブッキングできるかどうかの実現の鍵になっているほどです。ロッシーニのオペラ・セリア(悲劇的オペラ)の上演が増えてきたのも、ROFが長年かけてロッシーニの作品を再発見し、その演奏はこうあるべきだということを研究・実践してきたからなんです。

小堀:ペーザロで学び歌ったことにより、自分の中のロッシーニ像は大きく変わりました。ロッシーニを歌うのに必要なのはまず正確さ。フレーズを歌う時の息の運び、細かい装飾のある速いパッセージを歌う時の音程。それまでも自分では正確だと思って歌っていたんですよ。でもそれは(ロッシーニの再発見に貢献した音楽学者・教育者の)アルベルト・ゼツダ先生にとっては正確じゃなかった。「音程外れてるよ！」と。正しい音程の感覚、息の支えの使い方、そして楽譜の読み方。そういったものをちゃんと自分に覚え込ませられたというのが一番大きかったです。

園田:細かい音を正確に歌いながら、それによって様々な感情を表現するというのはすごく難しいこと。でもその難しさが喜びになって、みんなロッシーニ沼にはまって抜けられなくなるんです(笑)。歌う人のファンタジーがないと、単なる音の羅列、速いパッセージを聴く快感だけになってしまいますから。

小堀:いつも感じるのは、ロッシーニの歌唱はフィギュアスケートに似ているなということ。一流の選手たちが見せるあの芸術性というものに到達できるかどうか。だから僕はフィギュアが好きでよく見えています。ロッシーニみたいだなんて思いながら。

● 今回のリサイタルはベルカント・オペラの代表的な作曲家ロッシーニ、ドニゼッティ、ベッリーニの中からロッシーニの真髄を味わえるオペラ・セリアを中心に構成されており、ドニゼッティもいくつか演奏される。

園田:我々の「昨日・今日・明日」ではないですけども、今、ベストで届けられる曲を考えて自然とこのプログラムになりました。ベッリーニも当然その先にあるので、一回だけでなくシリーズとして続けていけたら嬉しいと思っています。今回の曲目で最初に決まったのが《エルミオーネ》からの、ヒロイン、エルミオーネの激しい感情を歌う二重唱。ロッシーニのオペラ・セリアの素晴らしさを伝えたいという気持ちが我々の根底にあり、《ランスへの旅》の二重唱は違いますが、それ以外のロッシーニ作品はセリアから選んでいます。

脇園:ドニゼッティは、(英国)女王シリーズと呼ばれる中から、私が今後、出演することが決まっている2作品を歌います。《マリア・ストウアルダ(メアリー・ステュアート)》は、通常版とは反対の、エリザベス女王がソプラノでメゾ・ソプラノがマリアを歌う版があるのですが、今回はその版からで、私はマリアにとってもシンパシーを感じているので歌うのが楽しみです。



©Studio Amalfi Bacciardi

©Fabio Parenzan
Photofour

©T. Tairadate

● 脇園、小堀の二人に、一緒に歌っていて相手の好きなのところを聞いてみた。

小堀:脇園さんと歌っていて一番好きなのは、目から音楽が出ています。ロッシェニは、勉強した人にはわかると思うのですが、楽譜が常に頭の中ないと歌えない。正確に歌うことをクリアして、さらにその上を目指しているのが、今その世界のトップにいる脇園さんのような人なのですが、彼女の表現するロッシェニって目から出てくる。僕は同じ楽譜を見ているから、二重唱などで次の動きを知っているわけですが、彼女がどのような心理描写でその次のフレーズを歌う、というのが目を見るとすごく分かるんですね。それが凄い。一緒に歌えるのは光栄です。

脇園:それを感じられる感受性を持っていらっしゃるの凄いです、そんなことを言われたのは初めてで嬉しいです！小堀さんは、歌い手として本当に素晴らしいのですが、それ以上に、人間としての優しさとか包容力がある方。約一年前、浜離宮朝日ホールで開かれた小堀さんのリサイタルに伺ったのですが、午前11時半開演という早い時間だったのにも関わらず、名曲・難曲ばかりのプログラムで、「この人何なんだろう!？」と思いました。自分に負けない、楽なところに流されない、芸術家として音楽に対するまっすぐな姿勢に感動したんです。「彼とまた音楽を一緒にやりたい!」と思いました。周りの皆さんも協力して下さい、あっという間に今回のリサイタルが決定しました。

● 二人の稀有な歌手をピアノで支えるのは、彼らが全幅の信頼をおく園田隆一郎。イタリア・オペラが得意な指揮者で、その中でもロッシェニのエキスパートだ。

園田:脇園さん、小堀さんは何事にも果敢に挑戦する、すごく高いところを目指しているお二人。尊敬しているし、私が一番年上ですが、自分より若い彼らから学ぶことはたくさんあります。今までも活躍してきて、これからも進化し続けていくであろう二人ですが、でも本当に今、聴くべきアーティストだと思うので「お聴き逃しなく!」という感じです。

小堀:今でなければ演奏することができない曲目が揃っています。来ていただいたら損はさせません！

脇園:おそらくもう後にも先にも日本では聴くことができないコンサートになると思います。あまり知られていないけれど芸術的な価値の高い作品を世の中に出していきたい、というのは私のライフワークの一つ。その夢がまず第一歩として実現するのは、本当に嬉しくありがたく思っています。伝説のコンサートにします。ぜひ来てください！



～ ニューイヤーに贈る奥妙なベルカントの世界～ 脇園彩&小堀勇介 ニューイヤー・デュオリサイタル with 園田隆一郎

2024.1月9日(火)19:00開演  浜離宮朝日ホール 料金:一般¥5,500
※U30は売完

- ❖ **ロッシェニ:** 《アルミーダ》より「甘美な鎖よ」(二重唱)
《湖上の美人》より「おお、胸を熱くする優しい炎よ」(小堀)
- ❖ **ドニゼッティ:** 《マリア・ストゥアルダ》より「空を軽やかに流れる雲よ」(脇園)、「全てから見放され翻弄されて」(二重唱)
- ❖ **ロッシェニ:** 《湖上の美人》より「たくさんの想いが今この胸に溢れ」(脇園)
《オテッロ》より「ああ、なぜ私の苦しみを憐れんでくれないのですか?」(小堀)
- ❖ **ドニゼッティ:** 《エルミオーネ》より「何をしてしまったの? 私はどこに? ~復讐は果たされました」(二重唱) ほか

ご予約
お問合せ

朝日ホール・チケットセンター
(日祝除く10:00~18:00)

03-3267-9990

チケット
好評販売中!



※全席指定・税込み ※都合により公演内容が変更となる場合がございます。

※就学前のお子様はご入場いただけません。託児サービスをご利用くださいませ(要予約)。【託児サービスのお問合せ】 イベント託児・マザーズ 0120-788-222